

② 障害者差別解消とやさしいまちづくりについて

岩田とも子

19人の命を奪った津久井山ゆり園のあの事件から1年。熊本県では障害者が安心して暮らしていけるようなどんな取り組みを行っていくのか。また、国際スポーツイベントを控えた今、地震後の復旧・復興期における新たな課題を踏まえ、やさしいまちづくりにどのように取り組もうと考えておられるのか。

県内のバス会社はリフト付きバスを所有していないので、県として取り組んでほしいという要望をしました。

古閑健康福祉部長

事件を受け、共生社会づくりの大切さを強く再認識した。障害福祉事業所に防犯に関する通知、対策状況の確認・指導、防犯カメラ等の設置助成を行った。また、条例等に基づき啓発や相談対応、調整委員会の設置等を進めてきた。今後も市町村に職員対応要領作成を要請し、地域や企業への講師派遣を積極的に行う。震災復興にやさしいまちづくりの視点を導入した推進指針を策定し、障害者等に配慮した避難所運営マニュアルを策定した。また、周囲に配慮の必要を知らせるヘルプカードの導入・周知を行った。また、障害者受入の環境整備等の必要性を指針に明記し、バスのノンステップ化や建物のバリアフリー化等を促進する。今後も、県民誰もが共にいきいきと暮らせるやさしいまちづくりの実現に向けて取り組みを加速していく。

③ 働き方改革へ向けて

① 公務員の働き方について

岩田とも子

公務員という仕事は、営利を目的とせず純粋に一人ひとりの幸せのためにある。長時間労働の続くような働き方では、健康の確保も仕事と家庭生活との両立も困難にし、少子化などの原因にもなる。それは公務員である本人にも県民の幸せにもつながらなくなるのではないか。公務員の働き方について知事の考えを聞きたい。

蒲島知事

職員に「皿を割れ!期待値を超えよ!」と言ってきた。浸透している。日本1の挑戦する集団となっている。通常業務の徹底的な見直し、任期付職員の採用、県外からの職員派遣などを行っている。職員へのストレスチェックも行っている。職員が幸せになることを願っている。よ力ボス宣言を広めていきたい。仕事にやりがいを持って取り組み、休むときにはしっかり休む。これが理想的。

ワークライフバランスが大切であり、そもそも家で「皿を割らずに」洗える余裕ができる改革を要望しました。

② 教職員の働き方について

岩田とも子

長時間労働による過労死が全国各地で続いている。各学校にタイムカードの導入や留守番電話の導入、部活動の休養日の設定など勤務時間の管理徹底を図ることなど中教審から緊急提言が出された。タイムカードやICカードなど客観的把握ができる機器での把握は2割ほどだとの報告であった。

熊本県の場合、県立高校と義務制の学校で、この客観的把握が、どの程度できているのか。そして、今後の勤務時間の把握の徹底と超過勤務是正への取り組みはどうか。

宮尾教育長

全県立学校で自己申告による業務従事時間の把握をし、市町村立学校で約37%の学校がタイムカード等による把握をしている。県立学校では、来年度から、夏季休業期間中の一斉閉庁を試行し、勤務時間把握の管理システム導入を検討する。また、市町村教育委員会に対し、勤務時間の客観的把握を働きかけ、各学校で業務改善が進むよう研修を行う。中央教育審議会の緊急提言も踏まえ、引き続き教職員の長時間勤務の改善に向けた取り組みを進めていく。

宮尾教育長

任用方法の違いがあり、継続的な任用ではない。計画的に採用数を増やしており待遇も見直している。臨時的任用教職員も含めて働きやすい職場環境に勤める。

質問と答弁が噛み合っておらず、また納得できないままでした。今後も追求していきます。

③ 臨時的任用教職員の働き方について

岩田とも子

同じ仕事をしていながら給与や任期に違いがあることを疑問に思っている。この質問はこれまでに2回したが、答弁は2回とも「職責が違うために違いがある。」とのことだった。実態を知るものとしては納得がいかないので再質問する。どうしても職責が違うと言われるのなら、現場で働く臨時的任用教職員の方々が具体的に「こんなところが違うのだ」ということがわかる職責の違いを示してほしい。

④ 学校給食を中心とした「食育」の推進について

岩田とも子

自治体という公の機関が子どもの貧困対策として取り組むべきことの一つは、学校給食を充実させること。学校給食の充実には栄養教諭が学校における食育推進の中核として、校内の教職員はもとより家庭や地域との連携を図る役割が十分にできることが大切。そのような充実した体制作りについてどのようにお考えか。

栄養教諭、学校栄養職員の配置や待遇改善。また、食のセーフティーネットとしての給食についても考えるよう伝えました。

宮尾教育長

学校給食は子どもたちの健康増進の核となる。県内185名の栄養教諭及び学校栄養職員が給食指導や食育に取り組んでいる。朝食抜きや肥満が見られる。食育推進はチーム学校により子どもの食の実態を把握し、教職員、保護者、各種団体と情報共有し、連携、協働できる体制づくりにをすすめている。健やかな体と豊かな人間性を育む食育に取り組んでいく。

⑤ 動物愛護の取り組みについて

岩田とも子

これまで管理をするという視点で仕事をされてきて、「さあ、今日からは管理ではなく愛護の視点で仕事をする」ということは非常に無理があると思う。意識が変わるまでの期間も必要。熊本市動物愛護センターの成功はセンターが市の直轄事業であることも功を奏している。せめて健康危機管理課の中に動物愛護班が作れないものか。また、知事の「管理から愛護へ」の決断が全国に広がっている。ふるさと納税で、愛護のためのパルボウイルスのワクチン代や避妊去勢の費用を集めることができるのではないかと考えているがいかがか。

古閑健康福祉部長

担当班の増員をした。組織については今後推進状況を見ていく。財源確保のための寄付金は有効。3月からホームページに掲載する。取り組みは強化していく。PRに努めていきたい。

⑥ 「子どもの貧困」対策について

岩田とも子

小学校5年生と中学校2年生の熊本市を除く全家庭に、子どもの生活実態調査が学校を通して各家庭に配布し回収をされた。アンケートの設問には、保護者の最終学歴やプライバシーに関わるものもあり配慮をされたことは聞いている。だからこそ、アンケート結果をしっかりと施策に反映していかなければならない。その点の意気込みを聞かせてほしい。

古閑健康福祉部長

回収は配慮の対応をお願いした。76%の回収。施策への反映は着実にすすめていく。調査結果は来月に速報値を出す。その後分析および課題等を整理する。それを市町村と共有し地域に応じた施策を進める。

採択事項

- 「教職員定数の改善及び義務教育費国庫負担制度の拡充についての意見書」は**全員賛成で可決**
- 私が紹介議員となった「被災者の医療費補助継続の請願」は**否決**

自宅再建の見通しすら立たない中、被災された方の医療費負担を少しでも軽減する請願が多く議員の反対で否決されたことは大変不満です。

